

講義名	日本経済論			授業形態	
担当教員	上瀬 真生	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 5 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

主題と概要

現在、日本経済は転換点に立っている。グローバルな経済発展が曲がり角に立つなかで、日本経済がどのように進むべきかが問われている。この講義では、前半で働く人々の状態という見地から日本経済の現状を考察し、後半で第二次世界大戦後、日本経済が進んできた過程を考察する。これらをもとに、今後の日本経済のあり方を受講生とともに考えたい。

到達目標

今日の働く人々の状態を日本経済の現状との関係で理解し、自分なりの考えをもつことができるようになる。
第二次世界大戦後の日本経済の歩みについて理解し、自分なりの考えをもつことができるようになる。
以上を踏まえて、今後の日本経済のあり方について考えることができるようになる。

提出課題

毎回の講義でクイズを課す。
中間レポート試験を課す。
期末レポート試験を課す。
* これらについては、Campus-Xs をつうじて提出を求める。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

毎回のクイズについては、Campus-Xs をつうじて採点結果を伝え、次回講義時にコメントする。
中間レポート試験については、Campus-Xs をつうじて採点結果を伝えるとともに、講義時にコメントする。
期末レポート試験については、要望があれば個別にコメントを付して採点結果を伝える。

評価の基準

各回の講義で行うクイズ、中間レポート試験、および期末レポート試験の総合評価（単純合計）による。これらを通じて、三つの到達目標についての到達度を測る。
クイズ 30点満点（毎回 2点 x 15回）
中間レポート試験 40点満点
期末レポート試験 40点満点

履修にあたっての注意・助言他

できるだけ身近な問題と関連づけながら講義するつもりであるが、受講生も新聞や雑誌などの関連記事に目を通し、今日の日本経済をめぐる問題を知る努力をしてほしい。

- 以下のとおり、受講ルールを定める。
 (1) 授業開始後15分を経過した方は入室を認めない。
 (2) 席間については教員の指示に従う。
 (3) 私語厳禁。目にあまる場合は退室してもらう。
 (4) 携帯電話などの電源は切る（レジュメへの書き込みなどでPCやスマートフォンを使う場合は例外とするが、写真撮影は禁止する）。

教科書

.教科書は使用しない。.

参考図書

.講義内で適宜紹介する。.

その他

Campus-Xs をつうじてレジュメ、資料を配信する。
配信は講義日の1日前を基本とする。
受講生は、これらをダウンロードし、印刷するなど、講義に向けて準備すること。

授業計画

- はじめに / 現在の日本経済を考えるために
- 働く人々の状態からみた日本経済 雇用・失業をめぐる状況(1)
- 働く人々の状態からみた日本経済 雇用をめぐめる状況(2) / 賃金をめぐめる状況(1)
- 働く人々の状態からみた日本経済 賃金をめぐめる状況(2)
- 働く人々の状態からみた日本経済 労働時間をめぐめる状況
- 働く人々の状態からみた日本経済 男女の働き方のちがい(1)
- 働く人々の状態からみた日本経済 男女の働き方のちがい(2) / 日本経済の歩み 戦後日本経済の歩みと私たちの人生
- 日本経済の歩み 戦後復興
- 日本経済の歩み 高度経済成長(1)
- 日本経済の歩み 高度経済成長(2)
- 日本経済の歩み 安定成長と貿易摩擦
- 日本経済の歩み バブルとバブル崩壊
- 日本経済の歩み グローバリゼーションの中の日本経済(1)
- 日本経済の歩み グローバリゼーションの中の日本経済(2)
- 日本経済の歩み 日本経済の課題

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回のクイズ解答作成を含め、復習 20時間
中間レポート試験の準備 20時間
期末レポート試験の準備 20時間

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

日本経済論は、経済学部 学部専門基礎科目に配置されている経済学科・経済情報学科共通の6科目中の1科目である。到達目標 - を達成することによって、経済学部ディプロマ・ポリシーで言う「経済学の知識を幅広く修得」すること、「総合的考察...に秀でた人材」となることに寄与する。また、到達目標 を達成する過程で今日の働く人々の状態を示すデータを読み、「情報処理能力に秀でた人材」となることに寄与する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

クイズについて、講義時に必要なコメントを行う。
できる限り、受講生が意見を述べる機会をつくる。

実務経験の有無及び活用

なし。

備考

Campus-Xs や RYUKA Portal のメールなどをこまめにチェックすること。